

## 南アルプス山系安倍奥の山 山伏岳・八鉢嶺

実施日 2018年11月3日(土)～4日(日)

天候 曇り

リーダー 峯川 弘子

参加者 中村友子、宇野輝代、峯川弘子

計3名

費用 JR往復8,162円(ジパング八王子起算)

宿泊費1,970円(夕食付)

ガソリン代1,000円 入浴700円

タイム 11/3 百畳峠(45)山伏岳(11:25~11:40)駐車(12:15)

南アルプスユネスコエコパーク井川

自然の家(13:50)泊

11/4 井川自然の家(6:00)

八鉢嶺登山口(8:00~8:10)

八鉢嶺山頂(10:10-10:30)

登山口(12:10)梅ヶ島遊歩道散策(12:40-13:30)

黄金の湯(13:40-15:30)

静岡駅(16:40)

### 【11/3】

直前に山伏岳の西日影沢コースが9月の台風で三ヶ所の橋が崩れ通行止めとの情報。直近のヤマレコの写真を見ると橋がなくても渡渉できそうだが、しかし登山道の崩落の写真が気になる。

市に問い合わせしてみると自己責任でも危険とのこと、こうなるとバスが使えず縦走はできない。



急遽二座をピストンに。宿泊はどうしよう？市民の森ロッジは9月で営業終了、ピストンとなると料金お高めの梅ヶ島温泉に泊まって登るほどの2座ではない、市役所が井川自然の家があります、と教えてくれた。

CLの富士山号で静岡駅で合流、途

中から落石やら穴ぼこの林道を走り百畳峠へ到着、ここからは1時間弱で山伏岳山頂へ、登山道はよく整備されて



いて歩きやすい。曇り予報のはずが徐々にガスガスの山頂には2グループがいた。

2,000m超えなので寒い。

宿泊するはずだった山伏避難小屋に立ち寄り、今日はこのまま下山、明日大谷嶺まで往復するでしょう！

### 【11/4】

今日の歩行は長いので4時30分起床。

井川の早朝は霧雨、車で約2時間、井川湖を下に眺め、奥深い南アルプスの山々の紅葉ドライブを楽しみながら安倍峠手前の八鉢嶺登山口へ到着。

1番乗りのようだ。オクシズ紅葉の名所とあって周りの紅葉がすでに美しい。

雨はないが曇り空、山にはガスがかかっている、天気が悪ければ大谷嶺はやめてゆっくり八鉢嶺往復にしよう、そんな相談をしながら歩き始める。



誰もいない静かな登山道を紅葉を眺めながら進む、いいな～。

安倍峠越えは武田信玄が金を山梨に運んだ道、今でも車で梅ヶ島から身延町へ抜けることができる。静岡の海で捕れた魚を山梨まで歩いて運んだ古道の大笹峠越え、そんな昔に思いを馳せながら歩くとまた楽しい。が、だんだん息が切れてきた、上を見ると結構な急登、汗が噴き出



る、1時間歩いて少し休憩。根っこやロープをつかんだりゆっくり歩いて約2時間、山頂に到着。短時間でもなかなか歩きでの登山道だ。手作りの

どら焼きをいただきコーヒータイム、空はあいかわらずどんより&ガス、大谷嶺はあきらめ雨が降らないうちに下山することに決定。

来た道に戻ると駐車場に車が増えている。山中にいたのは2グループだけ、観光客もここまで紅葉を見にきているようだ。

梅ヶ島温泉郷に戻るとさらに紅葉狩りの観光客で賑わっていた。時間があるのでこぶし会も車を止めて紅葉の遊歩道を散策、湯元の滝などこれまで訪れることのなかった梅ヶ島を楽しみ、黄金の湯へ。



ぬるっとした泉質がとても良く3人でびっくり、ドライ

バーに気を使って泡を我慢してくださいすみませんでしたm(\_\_)m

関東からも県内でもなかなか訪れにくいオクシズの山旅、楽しんで頂けたでしょうか。。

※今回の宿泊先は昔から各市町村にあるいわゆる「少年自然の家」南アルプスがユネスコエコパークに



認定されたのを機に名称変更し、県外なくの個人にも可能なところ

と、南アルプスアプローチの畑雑ダム駐車場へ行く途中の峠、井川湖の上側に位置する。

宿泊費920円 シーツ代、夕食(800円 予約制)を付けて1人1,970円、とても丁寧な市職員がお出迎え。

チェックインは市役所へ提出するとかで宿泊申請書やらなんやら記入させられたが部屋はきれいな和室の個室で洗面所、ミニキッチン、浴室付き、温泉ではないが大浴場もあり、夕飯もなかなか良い。



ただし部屋以外はアルコール禁止で缶は持ち帰り。当日はイベントで大勢の親子が宿泊していたが一般はこぶし会だけ。



私達のような登山者の宿泊は多いですか？と尋ねると、昨年くらいからポツポツと、PR不足ですかね～？と逆に弱々しく聞かれた。こんなでかい建物なのに、全国の山岳会などにパンフレットを送ってみては？SNS拡散、南アルプス登山の前泊、コスパ最高！とか～、ん？真剣にアドバイスしてどうする(笑)

職員さんより皆様の登山クラブへぜひPRよろしく願います、とのことでした。

(記&写真・峯川 弘子)